



「いのちの授業」

関市立武芸川中学校

【講演会型】



かけがえのない「命」について考えるために、武芸川中学校では継続して「いのちの授業」に取り組んでみえます。今回は、11月5日に性教育団体「ここいく」のメンバーを講師に迎え、中学校3年生の親子を対象に実施された「いのちの授業」についてお伝えします。

【主催者の願いと経緯】

「性」を「恥ずかしい」ものではなく「素敵なこと」「素晴らしいもの」として伝え、今後の学校での授業や家庭での会話につなげていく力になることを期待して、この講演会を行った。昨年度に引き続き、保護者の強い要望により実施した会である。

【講演の内容】

- 親子で聞く性の話:体の成長は恥ずかしいことではない。自分が“命をつなげる体になった”ということ。
- 性の多様性について:一人ひとり違って当たり前!!
- 性暴力について:大切なことは「思いやり」。自分の体を大切に。



- 赤ちゃんが生まれるまで:お腹の赤ちゃんはどんな風に成長し、どうやって生まれるのだろう。
- お産の仕組み:自然分娩や帝王切開など、どんな生まれ方でも赤ちゃんはみんな一生懸命頑張って生まれてくる。



○大切なあなたへ

出産のとき、お母さんはあなたに会いたいから痛くても頑張るのです。
たったひとつのかけがえのないいのちを大切に・・・。
「生まれてきてくれてありがとう。」



【参加者の感想から(一部抜粋)】

【保護者の感想】

- ・自分の頃は男女別に話を聞きました。男女一緒に話を聞くことができよかったですと思います。
- ・親になって十数年経ちますが、子どものできた頃を思い出して、話を聞きながら涙が出てきました。親子の絆を改めて感じました。

【生徒の感想】

- ・自分に自信がもてるような言葉をたくさんかけてくださいました。私はとても勇気をもらいました。歌を使ったりビデオを使ったりととても伝わりやすかったし、自分らしく生きていいんだと思いました。一つの命は一つの宝物ということが分かりました。
- ・自分は今まで性のことについて考えたことがなく、自分にはまだ先のことだと思っていました。でも、自分の体はもう命を作ることのできる体になっているんだと知り、とても身近なことなんだと思いました。
- ・知らない事をたくさん知ることができて、とてもよかったですと思っています。今では、僕もお母さんとケンカすることがありますが、関係を見直すきっかけになりました。
- ・誰かに聞こうと思っても簡単に聞けるような話ではないのですが、このような機会に包み隠さず話してただけで、すごく分かりやすかったです。お互いを思いやって、初めて、新しい命につなぐ。このことが分かったのでしっかり頭に入れておきたいです。
- ・話を聞いて、「命」ってすごいなと思いました。今、自分がいるけど、少しでも(状況が)変わったら自分は存在していないんだと思うと、今生きていることはキセキなんだなと思いました。
- ・私が生まれてきたことによって喜んでくれた人がいて、私をずっと見守ってくれている人がいるので、その温かさに感謝し、自分の命を大切にしていきたいです。
- ・自分の母親が長い時間をかけて産んでくれたのを知っていたから、今生きているのも感謝しないといけなないなと思いました。女の人より男の人よりずっと痛い思いをしたり辛い思いをしたりしているから、そこを理解できるようにしたいし、言葉だけじゃなくて行動も優しさの一つだから大切にしたいと思いました。

【取材を終えて・・・】

当日は、保護者が子どもと一緒に参加しやすいよう、中学校3年生の進路説明会後の時間帯に会が設定されました。

受付での検温や消毒、名簿チェック、当日の進行など、会はPTAの家庭教育委員の皆さんが中心となって運営されていました。「あなたの命はかけがえのないもの」という思いを伝えたいという、役員さんの強い願いを感じる会でした。



地域はみんなの憩いの場



……

～地域のサロンを会場とした乳幼児学級～

10月20日、郡上市明宝地域の乳幼児学級「ひよっこクラブ」では、緊急事態宣言発出で延期されていた活動が「かのみずわじまサロン」で開催されました。

「かのみずわじまサロン」（通称「わじまサロン」）は、毎週水曜日、寒水掛踊伝承館で開かれているサロンです。「地域の人たちが気軽に立ち寄れる場をつくりたい」という運営者の方の願いで開設されたこのサロンは、大人から子どもまで、地域の方にとって大切な場所となっています。

この日は、運営者の方手づくりの軽食と飲み物を囲み、6組の親子の皆さんが子育て談義に花を咲かせました。

【当日の様子】

*お互いに距離をとり、マスクをしながらのサロンでした。



……



地域のお年寄りも一緒に空間で、手づくりの軽食とお茶を囲んでサロンが始まりました。



子どもたちがお母さんから離れて遊びだしても、サロンの方が子どもに目を配ってくださいます。



……



「どこのメーカーのおむつを使っているの?」「何歳から保育園に入れたらいい?」などといった子育てに関する疑問から地域の情報など、広い話題について交流が行われました。

【参加者の感想から】

お茶を飲みながら楽しくお話しできてすごくリフレッシュできたと、ストレス発散になりました。息子も色んなおもちゃで遊んだりお友達と遊べて楽しそうでした。

久しぶりにわじまサロンで話ができ良かったです。なかなか集まって話す機会がないので嬉しかったです。

おいしいコーヒーとモーニングを食べながら、お母さん達と楽しくお話しできて、リフレッシュできました。また今日から育児をがんばれそうです。

【取材を終えて……】

「頑張って子育てしているお母さんが、地域の近い場所で、コーヒーを飲みながらママ友と話し、息抜きできる時間を作ってあげたい」という願いで、今回この活動が企画されました。

担当の方によると、平成28年に乳幼児学級で調理実習を行った際“わじまサロン”にお世話になったことがきっかけで、毎週、サロンが開かれる水曜日に、お母さんたちが子どもを連れて出かけられるようになったそうです。サロンでは、メンバーの方や地域の方が温かい目で親子を見守り迎えてくださり、子育て中の保護者にとって大切な息抜きの場となっています。

参加者がホッとひと息ついて元気をもらえる、温かさにあふれた子育てサロンでした。